



新しい1年を迎えるにあたり

会長 宮崎 豊彦



新年明けましておめでとうございます。

今年が皆様にとって良い年になりますようお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は収まる気配を見せず、その対応に追われた年となりました。1年の半分以上が緊急事態宣言下にあり、保育従事者へのワクチン優先接種が広がりを見せつつも、各自治体における対応も様々であり、我々の活動は制限せざるを得ず、また園児や保護者、職員などへの感染防止対策や感染者が発生した時の対応等についても、ご心労されたこととご推察いたします。

また、令和3年度4月における東京都全体の待機児童数は、前年度に比べて大幅な減少となり1,000人を割りました。待機児童対策に一定の効果が現われていると見られる一方で、各施設における定員の未充足が深刻化している状況も見られました。社会的に少子化、人口減少が懸念されている中、各施設が現状に即した運営ができるような仕組みづくりが求められている時代になってきた事が窺えます。本件については、当協会としても継続的な調査・分析、要望活動が必要と考えております。

当協会の活動については、一昨年に引き続きコロナの影響によって従来通りとはいかず、制限された中において実施せざるを得ない状況でした。令和2年度においては会場開催を中止とした「TOKYO保育園フェア」も、会員園の皆様の人材確保・採用活動の一助となるよう、何とか方法はないものかというろいろと議論を重ね、令和3年度においては、「オンラインTOKYO保育園フェア」として開催いたしました。令和3年8月21日から令和4年2月28日の期間で、数回の重点キャンペーン期間を設けながら、様々なコンテンツを盛り込んだ特設サイトと既存の求人サイトとの連動を図り、東京の保育園で就職を目指す学生と会員園の皆様とのより良いマッチングを目指し、運営してまいります。令和4年度においては、さらなる効果向上を目指し、現地開催とオンライン開催の併催による実施を検討しております。

「第4回TOKYO保育フォトコンテスト」は、コロナ禍にも関わらず、会員園133カ園から510作品と過去最多の応募をいただき、Web上で各賞の選考を行ないました。受賞作品は11月5日～6日に「TOKYO保育フォト展」の会場アーツ千代田3331で、検温、消毒、ソーシャルディスタンスといった感染予防対策のもとで展示させていただきました。表彰式やレセプションは残念ながら今年も中止とせざるを得ませんでした。子ども達や保育に携わる職員の方々の笑顔、いきいきとした表情など、たくさんの明るさや優しさの伝わる愛情に溢れた作品が多く寄せられ、このようなコロナ禍においても、我々に元気と勇気を与えてくれるフォト展になったと思います。引き続き社会に認可保育園の素晴らしさを伝えていくために継続していく予定ですので、たくさんのご応募を宜しくお願い致します。

本稿執筆時点で、緊急事態宣言は解除され、都内感染者もピーク時に比べると大幅に減少しております。今後、3回目のワクチン接種の実施についても報道されていますが、南アフリカで確認された変異ウイルス「オミクロン株」についての報道があり、また新しい感染リスクに見舞われるのか、心配されます。引き続き会員園の皆様の保育園運営にとって有益となるよう、情報提供や要望活動などに努めてまいりたいと思います。

新しい年を迎えるにあたり、1192カ園の会員園の皆様と協力しながら、日本の将来を支えるすべての子どもたちが、様々な体験を通して健やかに成長していける社会の構築を目指して、活動してまいりたいと思います。これからもご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。